

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	うだんほうじん はんしんのうがくはやしれんめい 阪神能楽囃子連盟調和会(法人番号1200-		団体ウェブサイトURL nougaku-hayashi.com
	代表理事 守家紀之		
制作団体所在地	〒 543-0034	最寄り駅(バス停)	JR桃谷駅
	大阪府大阪市天王寺区松ヶ鼻町6-18		
電話番号	06-4981-2777		
ふりがな 公演団体名	うだんほうじん はんしんのうがくはやしれんめい 阪神能楽囃子連盟調和会(法人番号1200-		団体ウェブサイトURL nougaku-hayashi.com
	代表理事 守家紀之		
公演団体所在地	〒 543-0034	最寄り駅(バス停)	JR桃谷駅
	大阪府大阪市天王寺区松ヶ鼻町6-18		
制作団体 設立年月	2014年 5月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長 守家紀之 理事 中田弘美 村上訓義 山本哲也 監事 清水多香 雄	構成員人数:34人(令和5年6月1日現在) 加入条件:阪神地区にて活動を行う能楽囃子方 で、芸事上の後見人もしくは所属する流儀を代 表する立場の者の推薦を得て、理事会の決議を 経たず、社員総会において社員総数の3分の	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	上田慎也(連絡先090-8757-0890)
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	村上訓義

本申請にかかる連絡先  
(メールアドレス)

[chouwakai@hotmail.com](mailto:chouwakai@hotmail.com)

制作団体沿革	<p>昭和39年1月 任意団体 阪神能楽囃子連盟調和会 発足  平成26年5月 大阪府の認可を受け一般社団法人に移行</p>			
学校等における公演実績	<p>過去10回 阪神間の能楽堂において自主公演「和のしらべ」を行う。  関西学院大学・甲南大学の能楽部などで囃子の指導を行う。  所属会員が地元の小中学校にてワークショップや子供教室の講師を勤める。  池田市立五月山児童文化センター能楽クラブにて、15年以上指導し、なお継続して指導中。  大阪府立東住吉高校芸能文化科にて20年以上能楽大倉流小鼓の講師を勤め、なお継続中。  平成30年2月 奈良私立すまいる保育園・奈良私立ネオボリス幼稚園にて「ひな祭り五人囃子講座」を園児対象に行う。  平成31年3月 奈良私立すまいる保育園にて19・20・22・25の4日間「能楽五人囃子講座」を園児対象に行う。  令和元年度「文化芸術による子供育成総合事業」の採択を受け、関西地区18校にて実施する。  令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業」の採択を受け、中国地区9校にて実施する。 令  令和5年度「文化芸術による子供育成総合事業」の採択を受け、関東地区にて実施中である。</p>			
特別支援学校等における公演実績	<p>令和元年度「文化芸術による子供育成総合事業」の採択を受け、大阪府立光陽支援学校にて実施する。</p>			
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有		
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=wZAii4tq97Y">https://www.youtube.com/watch?v=wZAii4tq97Y</a>		
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよび	ID:		
	パスワード	PW:		

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人 阪神能楽囃子連盟調和会(法人番号1200-05-017220)】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	能囃子が奏でる和のしらべ ～室町能楽バンド～				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	オープニング囃子「舞働(まいばたらき)」	3分			
	挨拶 能楽について 演者紹介	5分			
	能管、小鼓、大鼓、太鼓、かけ声について紹介	15分			
	「舞働(まいばたらき)」を打ってみよう	15分			
	囃子を指揮してみよう				
	～みんなの合図でテンポが変わるよ～	12分			
	休憩	10分			
	袴(かみしも)コレクション	10分			
	小鼓の合奏 「揉ノ段(もみのだん)」に挑戦!	15分			
			公演時間	100 分	
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況		
演目概要	<p>オープニング囃子「舞働(まいばたらき)」 龍神、雷神などが強く、勇ましく舞う舞事です。 力強く、テンポの良い曲は子供たちを能の世界に引き込みます。</p> <p>●挨拶は基本正座、椅子の場合は姿勢正して行います。</p>				
演目選択理由	<p>能楽は、室町時代に当時の様々な芸能を集大成させて生まれました。この時代の文化は日本文化の原点とも云われ、「稚ひ寂ひ」や「幽玄」と言い表されます。この文化の特徴は表現手法を出来る限りに簡素化するというもので、能楽もその手法を用いています。囃子のみで曲の一部分を紋付袴姿で演じることを素囃子と云いますが、能一曲では1時間以上の演奏時間となりますので、囃子の盛り上がる後半部分を抜粋して、より楽しんで頂けるように素囃子形式で鑑賞頂きます。</p> <p>目が覚めるような掛け声から始まる大迫力の「獅子」は能楽囃子の至芸ともいえます。しかも特別な掛け声による演奏方法があり、子供たちは「揉之段」や「舞働」で掛け声の重要性を体験しますので、能囃子の高度な技法を頭だけで知るのではなく、身をもって体験できる演目となっています。</p> <p>現在はテレビやインターネットなどで映像化された媒体に接することがほとんどで、頭の中でイメージを作り上げることが少なくなり、江戸時代には大名同士で袴の柄を競ったという話もありますので、袴キット(6セット程)をワークショップ参加の学年やクラスに配布して、子供たちに能楽師が着用するオリジナルの袴(上のみ)を作製して頂きます。</p> <p>クラスやグループ毎に我々能楽師の着用する袴を作製して頂き、本公演に備えます。</p> <p>本公演参加の子供たちは「揉之段」「舞働」の合奏に挑戦します。小鼓の手組と太鼓の「刻(きざみ)」という手組み(リズムパターン)を稽古します。最後の合奏ではプロの囃子演奏者(笛・小鼓・大鼓)も加わりますので、その力強い息遣いやかけ声を感じることが出来ます。</p> <p>また、その合奏では子供たちの代表者(5名程度)に舞台上がって頂き、調和会特製の袴を着用し、本物の小鼓で演奏をして頂きます。</p>				
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態					
出演者	<p>囃子方 笛 赤井要佑 小鼓 上田敦史 大鼓 森山泰幸 太鼓 中田一葉 進行役 上田慎也</p>				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含	出演者:	5 名	運搬	積載量:	t
	スタッフ:	2 名		車長:	m

部

合計: 7 名

台数: 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	12時	12時～13時30分		13時30分～15時10分	10分	15時20分～15時50分	16時
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	14日	4日	18日	22日	
	11月	12月	1月	計	117日	
	20日	15日	14日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	1000名(楽器で合奏する児童に加えて、他の)
		鑑賞人数目安	1000名

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。










児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	120名
ワークショップ実施形態及び内容	<p>能狂言で使用される楽器を体験します。本公演で演奏する小鼓の合奏を中心に稽古します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング「舞働(まいばたらき)」 3分</li> <li>・挨拶 能楽の紹介 7分</li> <li>・楽器の解説 15分</li> <li>・小鼓「揉之段」の稽古 10分</li> <li>・太鼓「舞働」の稽古 10分</li> </ul> <p>休憩10分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器体験(能管・小鼓・大鼓・太鼓) 30分</li> <li>・裃(かみしも)作製の説明 10分</li> <li>・本公演にむけて 5分</li> </ul> <p style="text-align: center;">合計100分</p>		
ワークショップのねらい	<p>普段耳にすることの少ない能囃子の体験を中心にワークショップを行います。能楽で使用される4つの楽器(笛・小鼓・大鼓・太鼓)の演奏者4名と進行役1名の計5名で実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●挨拶 能楽の紹介 日本には「礼に始まり礼に終わる」という言葉があります。正座し、背筋を伸ばして、まずは挨拶を交わしてから、ワークショップを開始します。 能は「謡(歌)」・「舞」を中心とした演劇であると同時に音楽劇でもあります。今回は器楽の「囃子」のお話を中心に、能の紹介を行います。</li> <li>●楽器の解説 4つの楽器の特徴や演奏方法を解説します。また、能囃子の演奏において欠かせないカケ声の解説と体験も行います。</li> <li>●楽器体験(能管・小鼓・大鼓・太鼓) 能管 小鼓 大鼓 太鼓を体験して頂き、小鼓の音を叩き出し、太鼓を打った時の毛に伝わる衝撃を楽器体験について、基本児童は正座姿勢で行いますが、足に怪我等をされた児童については椅子に座り演奏体験をします。太鼓については、楽器も椅子に置いて演奏体験する。能管の体験は、特に事前消毒を徹底して、ウイルス対策する。</li> </ul>		
その他ワークショップに関する特記事項等			

## 本事業への申請理由

【公演団体名 一般社団法人 阪神能楽囃子連盟調和会(法人番号1200-05-017220)】

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

## ①本事業に対する取り組み姿勢

阪神能楽囃子連盟調和会は、阪神間の能楽囃子の技芸向上と後継者の育成、普及・啓発等を目的として昭和39年に任意団体として設立し、以降50年間にわたり活動を行ってまいりました。

さらに、国の制度等を活用しつつ継続的かつ組織的に事業展開を行うことにより、能楽及び能楽囃子の興隆を図り、我が国の文化芸術の発展に寄与することをめざして、平成26年5月に法人として設立を果たしました。

その構成会員は、主に重要無形文化財総合指定保持者が多数を占め、さらに複数の個人指定保持者(人間国宝)も有するなど、非常に高いレベルの芸術文化活動を行っている団体でもあります。

能楽は、室町時代初期、観阿弥・世阿弥父子によって崇高で芸術性の高い舞台芸術へと大成され、今現在650年余りを経ても色あせない我が国を代表する伝統芸能で、ユネスコ無形文化遺産に日本で最初に選出された世界に誇る芸能です。

その中でも、能楽囃子の世界は、西洋音楽や楽器とは異なり、日本独特の気候や風土に根ざしながら、今日まで長い歴史の中で培われ、伝承されてきた、世界に類を見ない特徴を有しています。

この日本独特の文化性をもつ能楽囃子について、今回の申請事業では、国の制度を積極的に活用し、吸収力旺盛な少年少女時代において、鑑賞するだけでなく、経験豊かな調和会会員の指導・支援のもとで、自ら小鼓、大鼓、太鼓を打つなど、五感で日本文化を体験できる機会を提供することにより、子どもたちの成長過程において豊かな自己表現と協調性を身につけることに寄与できるものと認識しています。

また能楽囃子方が使用している道具(楽器)は江戸時代の物を使用している場合がほとんどである。我々能楽師は、親から子に・師匠から弟子に大切に継承している結果である。それを説明し、生徒の皆さんには物を大切にすることを確認してもらいます。

さらには、これらの活動を通じて、次代に向けて能楽および能楽囃子の興隆につなげ、大切な日本固有の文化の継承及び、自国の文化へ興味や誇りを持てるようにつなげていきたいと考えています。

## ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

法人内において、会員を当事業専属事務として設定し、これに対応させます。

なおかつ事務所内の電話だけではなく携帯電話の記載を行い、多くの時間帯においても電話対応できるようにしています。

まずワークショップでは、能楽囃子の楽器である能管、小鼓、大鼓、太鼓を鑑賞、体験してもらうため、囃子方4名と進行役1名を調和会会員から派遣します。それに加え、学校側との調整を円滑に行うため、会員を専任の事務担当として派遣します。

本公演においても、出演者以外に法人会員を事務や舞台設営に加えることにより、柔軟に対応できるようにしています。

内容の工夫として、オープニングに「舞働」を演奏し、短く颯爽としたインパクトのある曲を聴いてもらいます。

その後能楽についてその歴史、演技形態、各楽器について説明します。楽器説明の折にはそれぞれ笛の旋律をうたう唱歌の練習、小鼓、大鼓、太鼓の構えと掛け声の練習を、実際楽器に触れる前に全体で予行練習します。

楽器体験では小鼓、大鼓、太鼓それぞれ5調用意して30分間体験、子供たちの人数によって内容を変えて対応します。

本公演において子供たちが演奏参加する曲目は「舞働」で、演奏にあたっては膝を打ちしっかりと太鼓の合奏の稽古をします。

進行役が袴を着用して調和会オリジナルの「袴セット」について説明します。上記にもあるよう武士の正装であった袴を子供たちが作製します。

本公演までに太鼓の稽古を自習学習できるよう、稽古用の映像を配布します。ワークショップから本公演までの間、映像を見ながら担任の先生も一緒に練習して頂ければとの思いで用意しました。

## 【袴セット】

袴は多くの歴史上の人物の着用し、肖像画などにも描かれています(織田信長など)。柄としても日本古来の文様も数多く使用されています。

子供たちが袴の模様や色などを考え作製することにより、自国の民族衣装を知るきっかけにもなります。さらに子供たちの製作意欲を高めるため、子供たちが作った袴を囃子演奏者が着用